

# もりふれ倶楽部の活動に関して 第1回

もりふれ倶楽部事務局長 野田真幹

最近会員の方から「もりふれ倶楽部の活動をまとめたものはないですか?」とよく聞かれます。私なりにまとめたものを3回にわたり掲載していこうと思います。

## ●テーマ1～里山環境保全の普及啓発活動

年間を通じて毎月1回実施する看板講座の「里山自然塾」(島根県立緑化センターが直接行っていたものを県から委託され今年度で6年目となります。里山の様々なテーマを取り入れ問題を参加者と共有するとともに、里山素材を活用したものづくり、料理体験等を指導する講座です。)をはじめ、自然観察会、里山ものづくり体験、ネイチャーゲーム教室等、拠点の島根県立ふるさと森林公園のみならず、県内の公民館・学校・各種団体へ出前講座も実施しています。

その規模は、年間70～100回程度、参加者合計約3千人程度です。



小学校での樹木観察指導



里山ものづくり体験での工作指導

☆自然体験やものづくり体験指導をしながら伝えたい里山の森林保全の課題

ア. 間伐の遅れによる山林の荒廃

林野庁「森林資源の現況」(平成19年3月31日現在)によると、全国の民有林の人工林率は45.8パーセント、島根県は37.8パーセントでその主なものはスギとヒノキです。

今から30～50年前が人工造林がさかんにおこなわれたピークの時期です。

当時は、間伐の時に柱材等でそれなりの収入があると計算していたと思います。ところが、平成22年度版森林・林業白書によると、スギの山元立木価格1㎡あたりで、昭和55年の22,

707円をピークに下落して、平成21年には、2,548円となっています。これでは、材を出せば赤字だと山主は躊躇してしまいます。

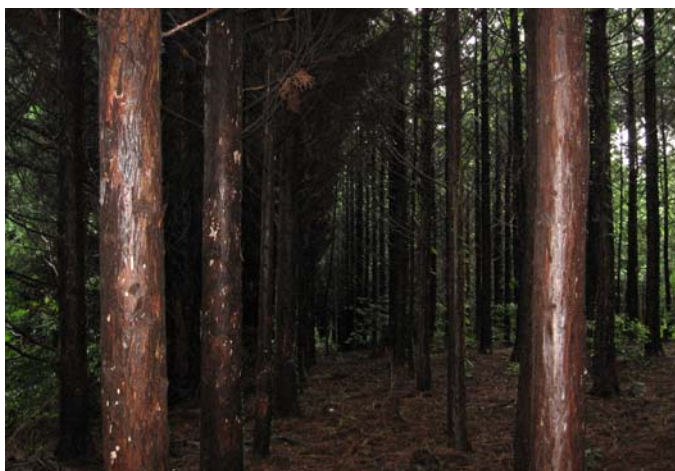
このような中で、間伐は切り捨て間伐を主体に公共事業を中心におこなわざるを得ない状況となりました。近年では、CO2の増加による急激な地球温暖化対策として平成12年までの5年間、国策で間伐が急激に進められ、材の活用も積極的にバックアップされようとしています。これらの事業は、国民多数の理解を得なければ長期にわたって継続してゆくことはできません。

では、間伐が遅れると、どのようなことがおこるのでしょうか。

平成22年度版森林・林業白書によると、「間伐は、成長の過程で過密となった立木の一部を抜き切りし、立木の密度を調整する作業である。間伐は、①樹木の成長の促進により風雪害や病虫害に強い健全な森林を作る、②林内の下層植生の繁茂により地表の浸食や流出を抑制する、③多様な動植物の生育・生息が可能となり、生物多様性の保全に寄与するなど、森林のもつ多面的機能の発揮に大きな意義を有するものであり、林業の観点からは、残存林分の成長促進や間伐材の販売による林業収入を確保するなどの意義を有している。」とあります。間伐が遅れると、これらの機能が低下し、災害にもろく、生物多様性に乏しく、当然木材として質も低下させます。

ただ、これらのことを言葉で説明しただけでは、なかなか一般の方、ましてや子供たちには伝わりません。

そこで、以下の3枚の写真を見せながら考えいただくことにしています。



間伐が遅れ下層が生えず真っ暗な森林



5割間伐し2年経った様子





**まったなし！  
次世代のため、  
今こそ、あなたの山の間伐を！！**

**間伐をしないと**

木が倒れ、下層樹が死滅しない

1. 大層木と根が倒れやすく、山が崩壊しやすくなります。また、薪や炭でも倒れた木が腐敗を早めます。
2. 森林は自然で育ち、樹木と土が、自然の力で育ちます。しかし、薪や炭を採ることで、土が崩壊しやすくなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。
3. 根が倒れ、下層樹が死滅し、森林が荒廃します。薪や炭の採りやすさも悪くなります。

**間伐をすると**

木が倒れなくなり、下層樹が育ちやすくなる

1. 木が倒れなくなり、土が崩壊しにくくなります。また、薪や炭でも倒れた木が腐敗を早めます。
2. 薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。
3. 薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。

間伐には、薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。また、薪や炭でも倒れた木が腐敗を早めます。

<p>間伐には、薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。また、薪や炭でも倒れた木が腐敗を早めます。</p> <p>薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。</p>	<p>間伐には、薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。また、薪や炭でも倒れた木が腐敗を早めます。</p> <p>薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。</p>
<p>薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。</p> <p>薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。</p>	<p>薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。</p> <p>薪や炭の採りやすさも悪くなり、薪や炭の採りやすさも悪くなります。</p>

林業で天皇杯を受賞された田中惣次氏のみごとな複層林

さらに、平成21年度には、間伐の大切さを山主さん達に思い出していただくとう、上のチラシを島根県東部の山間地を中心に、新聞折り込み等を通して、1万枚配布しました。その後、会員や林研グループのメンバーで、それらの地域を歩き、森林所有者方々の生の声もお聞きしました。その中で、所有形態の問題や、不在村地主が増えたことによる問題等も浮かび上がってきましたが「是非、子孫のために良い山を残してゆきましょう！」と声掛けしました。

間伐の遅れによる森林の荒廃を伝えるために、よく用いる自然工作体験に「間伐材の和紙づくり体験」があります。スギやヒノキの甘皮を煮て、叩いて、タブの葉やビナンカズラの茎で作ったネリとあわせて和紙をつくるものですが、この体験とセットで伝えると深い印象を持っていただけるようです。



間伐し、皮をむき、和紙を作る

## イ. 人が手を離れたため荒廃竹林が増加

間伐の遅れとともに、里山で森林保全を巡る課題となっているのが、荒廃竹林の増加です。

かつて里山に竹林があることは大変意義のあることでした。竹の物干し竿は、全国的な需要がありましたし、筍も貴重な食資源でした。竹は加工しやすく、他の材より軽く、農家の様々な生活の中でも欠かせないものでした。しかし、大量生産大量消費の時代に入りその需要はプラスチック製品等にとってかわられ激減し、筍は皮を剥くのが面倒だと敬遠され、農家の生活からもだんだんその存在は疎遠になってゆきました。

このため、人が関らなくなった竹林は、3～4か月で十数メートルに育つことも手伝い無秩序に生えて、さらに枯れたものも混在する竹藪へとかわってゆきました。その中は、間伐が遅れた森林同様真っ暗で、生物多様性に乏しく、災害に弱い場所になります。しかも、その面積は年々拡大してゆきます。これにより、10メートル以内の樹高の造林地が丸ごと竹藪に呑み込まれて全滅することもあります。



「竹林」は人の手を離れ「竹藪」になりました



竹筒ごはんづくり